

お取引先各位

新年のごあいさつ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、皆さまには多大なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により世界経済に対する不透明感が強まり、加えて米中貿易摩擦が深刻化したことにより、私たちのビジネスや日常生活にまで多大な影響を及ぼす変化が起きました。従前の経営スタイル、事業運営方法や働き方に至るまで、企業に変革を迫る一年となりました。

そのような環境の中、デジタルトランスフォーメーション (DX) への移行が急激に進み、半導体を始めとした当社事業に関連する分野においても、ビジネスチャンスが膨らんでいると考えています。

半導体製造装置事業 (SPE) では、テレワークの増大による活発な市況と旺盛な設備投資意欲に支えられ、装置ビジネスのさらなる成長・拡大を見込んでいます。また、技術革新においては、今後も新技術開発への挑戦、顧客への展開を継続し、マーケットにおけるポジションをより強固なものにしていきます。

グラフィックアーツ機器事業 (GA) では、業界的には最もコロナ禍の影響を受けていますが、ここ数年進んできたデジタル印刷への移行により、主力製品である POD 装置への転換が促されました。加えてリカーリングビジネスにおいてもさらなる拡大を目指しています。今後も CO₂ 排出量削減効果が大きい POD 化の流れをより一層推し進めたポートフォリオ変換を継続することで、収益性を高めていきます。

ディスプレイ製造装置および成膜装置事業 (FT) では、ディスプレイ業界全体において厳しい状況が続くと予想されるものの、スマホ用途を始めとした中小型の OLED 関連の投資は継続されており、近い将来、大型 TV 用 OLED も期待されます。また従前より取り組んできた EV 用電池を始めとするエネルギーなどの新規事業関連では徐々に成果を上げつつあることから、既存事業と新規事業の両輪でビジネスの維持・拡大を図っていきます。

プリント基板関連機器事業 (PE) においては、5G 投資の恩恵を受け、ポストセールスを含めて比較的安定して推移しています。技術革新に追従していくためにも微細化などの新たな技術へのチャレンジを継続し、マーケットシェア向上、売上の伸長を目指します。

このように SCREEN の各事業が事業活動を進展できるのも、お取引先の皆さまからのひとかたならぬご支援、ご理解があつてこそと、心より感謝申し上げる次第でございます。

さて、私たち SCREEN グループは、昨年7月に外部発表した中期経営計画「Value Up 2023」の中で、私たちが目指すべき企業価値のあり方を「SCREEN Value」と定義しました。事業の業績に直結する「経済的価値」と、事業を通じて社会の持続的発展に貢献する「Sustainable Value (社会的価値)」、これら2つの価値を共に高めていくことで、ステークホルダーの皆さまから一層の安心と信頼を獲得できるサステナブルな企業へと成長を続けてまいります。

気候変動問題への対策が世界的に大きく取り上げられる中、脱炭素社会の実現が産業界においても重要課題としてクローズアップされています。当社グループはこの動向を捉え、昨年「SBT (Science Based Targets)」に参画し、2030年までに事業活動を通じたCO₂の排出量を2018年度比で30%、さらに販売した製品からの排出量を20%削減することを目指すほか、「LCA (Life Cycle Assessment)」によるバリューチェーン全体での廃棄物量の低減等も新たな目標に掲げました。

目標達成に向けてお取引先の皆さまとの連携をより一層強固なものにし、脱炭素・循環型社会の実現を目指すとともに、企業理念「未来共有」「人間形成」「技術追究」の下、社会の課題解決につながる施策を提案し続けるソリューションクリエイターとして、皆さまと共にさらなる成長を目指す一年にしてまいります。

本年も倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年を迎えまして、皆さまのご多幸、ご健勝と、ますますのご繁栄を心より祈念申し上げます。

2021年1月5日

株式会社 SCREEN ホールディングス
代表取締役 取締役会長 垣内 永次
代表取締役 取締役社長 廣江 敏朗